



感染症週報



小笠原での流行状況

第35週（8月25日から8月31日まで）

父島 感染性胃腸炎の報告がありました。
COVID-19の報告が9例ありました。

母島 感染性胃腸炎の報告がありました。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第34週（8月18日～8月24日）

【警報・注意報】

なし

【ピックアップ】

★高い水準を維持しています

・百日咳

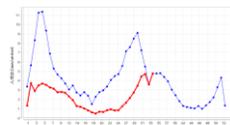
（累計報告数 5,241例）



★増加しています

・新型コロナウイルス感染症

（定点患者報告数 4.76）



**村内で
出ています！**

・ヘルパンギーナ

（定点患者報告数 1.51）



キノコと感染症

キノコは実はカビや酵母と同じ仲間で、胞子を作るために作られた子実体という器官がキノコと呼ばれています。



一般的には肺真菌症の中にも含まれています。肺の中で菌糸が発育してしまっている状態です。



キノコの病気といえば食中毒が有名ですが、キノコが放出する胞子を吸い込むことで、肺や気管支に定着してしまうことがあります。健康な人では免疫によって排除されますが、スエヒロタケやヒトヨタケといった種類のキノコで、免疫力が低下している人では、感染が成立することがあります。

感染すると、しつこい咳や痰、喘息様症状、X線撮影では肺炎のような影が確認されます。また、アレルギー性気管支肺真菌症の他、脳炎など重篤な症状に進行することもあります。

中高年・女性に多めですが、若年発症もあり得るため注意が必要です。



呼吸器系の疾患がある人は胞子が多く飛ぶ環境（朽ち木の多い森など）を避けることが理想ですが、現実的には難しいため、咳や痰が長引く場合は早めに医療機関を受診することが重要です。

感染症メモ

出典、参考：千葉大学真菌医学研究センター

今週はキノコと感染症を特集しました。キノコによる感染症は数例しか報告されない希少疾患ですが、診断が難しく、見逃されている可能性も高いため、実際の発生数はさらに多いと考えられます。そして、キノコの病気といえば、やはり一番は食中毒です。過去30年間の統計では、キノコによる食中毒は年間平均で約46件発生し、患者数は約155人にのぼります。死者も確認されており、決して軽視できません。スマホの画像検索でも食用キノコと毒キノコの判別を誤ってしまうこともあります。小笠原諸島でも多様なキノコが発生していますが、野生のキノコは食べないようにしましょう。

食の安全都民講座
これ食べられる？
気になるキノコ講座



習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所

